

聖ミカエラ学園漂流記

(2013年上演版台本)

高取英

●登場人物●

美村亜維子（ハンス・ハイルナー）

由紀

権左

大介

シスター

●ミカエラ学園女生徒

池田理佳

竹宮こずえ

美内陽子

萩尾美佐世

青池久美

大和和都子

大島真由美

遠藤冬美

山岸みちる

近藤さつき

野村真樹

高河みゆ

●少年十字軍

ミシエル

フランソワ

マルコ

ピエール

ヨハン

踊り子

旅芸人 1・2・3

船員

雲の上甚五郎

天草四郎時貞

(※この作品は1982年の初演以降、繰り返し上演されています。その都度、時代に合わせて変えられた台詞も多々あり、本戯曲は作者・高取英の生前最後の上演である2013年3月、月蝕歌劇団での上演版をもとにしています。)

—この演劇の女子高生たちは実際の生徒たちでなければならない。—

◆プロローグ◆

(客入れが終わり、キュー曲が終わると、『夏の思い出』(江間章子作詞・中田喜直作曲)を歌いながら、女生徒が数人ずつ舞台上がってくる)

女生徒 ♪ 『夏の思い出』冒頭を歌う

(女生徒たち、持っている本に火をつける)

(女生徒たち歌い終わると、音楽が始まり踊り始める。そして、突然音楽が止まり、本を閉じる)

(女生徒たちの声がひびく)

女生徒 A くるわ、とうとう

B わたしたちの待っていた

C 選ばれた人が

D 予言のとおりね

E 8月余日の黒ミサの

F 地獄に堕ちた仔羊が

全員 もっと 光を！！

● 暗転 ●

◆ 一場 ◆

(舞台では、太鼓の音にあわせて、踊り子が登場して踊っている。やがて、花道の客席から、旅芸人たちの一行がやってくる)

旅芸人 1 暗いなあ、道がよく見えない。

旅芸人 2 こんなに明るいのに。

旅芸人 1 暗いじゃないか。性格まで根が暗くなってくる。

旅芸人 4 明るいよ、いつも心に太陽を、そう思えば明るいよ。

(旅芸人 1・2・3、4、コントを始める)

旅芸人 1 「帰り道」 この道暗くって怖い。レイプ魔とか出たらどうしよう。

旅芸人 2 おい、ねーちゃん、待ちな！！

旅芸人 1 ひーっ。

旅芸人2

へっへっへっ。

旅芸人1

何よ、あなた！ 私に何する気？

旅芸人2

(手を旅芸人1の額にかざして) 貴方の幸せを祈らせて下さい。

旅芸人1

まぎらわしいよっ！

旅芸人3

「殺人現場」 中井君、状況は？ (※野線部は旅芸人4を演じる俳優の名)

旅芸人4

被害者は〇〇、△△才。職業タレント。暴行を受けた後、殺害された模様です。(※〇〇||タレント名、△△||〇〇の年齢。上

演毎に変更あり)

旅芸人3

そうか！

旅芸人4

それから、警部、被害者の下着を見て下さい。

旅芸人3

何だ、犯人の体液でも付着しているのか？

旅芸人4

(ズボンを下ろして) ボクのとお揃いです。

旅芸人3

お前、おかまかよ！！

(旅芸人たち、客席に礼をする)

踊り子

どっちでもいいけどさあ、今夜の宿はどうするんだい。

旅芸人1

あつ明かりが！！

踊り子

(踊るのをやめ明かりのところをみて) あ、「物乞い、旅芸人は、この街に入るべからず」って書いてあるよ。

旅芸人1

まただ。旅芸人に世間の風が冷たい。

旅芸人3

いらっしやい、いらっしやい。雲の上甚五郎一座だよ。踊り子がトンボをきるよ。

おっとどっこい、おっとと(声にあわせて踊り子がトンボをきる)

旅芸人1 もうこういうのはやらないんじゃないだろうか？ なにしるロックコンサートの時代だしなあ。

旅芸人4 全国的にうちだけだからなあ。

旅芸人3 お国の無形文化財にもならず。

踊り子 税金を払ってないからねえ。

旅芸人1 唯一のアナクロ。

旅芸人2 踊り子に売春でもさせなきゃー、食えないかな。

旅芸人3 バカッ（とこづいて）なんてことをいうんだ。

いつも心に太陽を、芸は売っても身は売らず、今日のみそ汁みはとーふ、という言葉を忘れたのか。

踊り子 そうだよ、あたい野宿にやなれてるよ。いいじゃない、世間の風が冷たくても。

さあさあ、いらつしやい。世にも珍し踊り子一座。とんぼ返りで陽がくれて――

旅芸人2 太鼓たたいて、お正月。

（上手から、通学カバンを持った女高生・美村亜維子登場。歌う）

亜維子 ♪ んーんーんー

たぶんあんたも知らないよ あたしがつくった聖マリア像

夢に見たんだ あこがれのエルサレム マリア様に首ったけ

毎日祈るマリア様 落として泣いた 秋の午後

亜維子 あのお、ミカエラ学園に行く道を教えて下さい。

旅芸人3 エッ！！ミカエラ？わし、英語弱いんです。

亜維子 聖（セント）ミカエラ学園に行く道はこちらでいいんでしょうか？

旅芸人 4 ああ学校ですか。さあ、このへんに学校などあるのかしらなあ。わたしたちも流れ者だから、よくわからないんですが。

旅芸人 1 学校だったら一夜の宿を許してくれるかもしれないなあ。ねえ、娘さん、何とか頼んでみてくれないかね。

亜維子 はい。でも。あのう。ミカエラ学園は、全寮制で、たとえ親子でも、男の人は、校内に入れないんです。

旅芸人 3 アナクロですなあ、うちの一座なみの。

旅芸人 4 うれしいねえ、無形文化財のような仲間が他にもあるなんて。

踊り子 （オニギリをだして）学生さん。これ、食べない？

亜維子 ありがとうございます。でも、だめなんです。

踊り子 え？旅芸人のオニギリじゃけがらわしいって言うのかい？

亜維子 いいえ、ミカエラ学園じゃ、よそさまから、ものをもらうのは、禁じられているんです。ヒ素が入っているかも。

旅芸人 2 ふん。いいっていいって。どうせオレたちや流れ者の文無し芸人たちさ。

亜維子 いえ、そんな。あの、い、いただきます。（食べて）あー。

踊り子 ど、どうしたの。大丈夫？

亜維子 おいしいー。わたしチョコしそうで、朝ごはん、食べてないもんだから。

旅芸人 3 ほんと。そりやよかった。もつともつとお食べよ。（とオニギリをだす）

亜維子 ありがとうございます。ムシャムシャ。おいちい。ムシャムシャ。

踊り子 高校生か。いいなあ。あたいなんで、小学校もロクにいつてないもんねー。

亜維子 よくないわよ。全寮制で。あたしも、あなたたちのように、自由に全国を旅したい。

踊り子 そーお。あたひ、九九までしか知らないし、漢字も読めないの。

いまさら、小学校からいくのは恥ずかしいしね。（トントン、と太鼓をたたく）

亜維子 そんなア。あたしだって、数学は全然わかんないし。あの、因数分解であるのよね。で、ぜんぜんわかんないの。

あの、xってでてくるでしょ。(x+1)(x-1)って。で、あたし、xってきくと、あのエックス線を連想しちゃうの。

xってきくと、レントゲンなのよ。ちっちゃいとき、レントゲン検査で、レントゲン技師のひとが、

おっぱいをチョメチョメしたのよね。だから、xがでてくると、ブーツとしちやうの。

だから、2X-1とか、もう、xがでてくると、あ、チョメチョメ、ブーツで、なあんもわかんなくなっちゃうのよ。

ふーん。xかあ。あたいなんかミスターxしか知らないけどなあ。

なに？ミスターxって。

踊り子 やんだあ知らないの。プロレスよ、プロレス。力道山と闘ったフクメンレスラー。

フクメンとつちやうと、はげてたのよね。ミスターx。

ふーん。あたしって、何も知らないのね。あのお、大阪焼って知ってます。

え、もちろんよ。あんた、大阪焼知らないの？

亜維子 あのお、大阪焼って、大阪を丸ごと焼いてるんですか？

踊り子 まさかあ。あの、メリケン粉の大判焼の中にね、たまごとキャベツが入ってるの。それをソースをかけて、食べるのよ。

亜維子 ふーん。おいしそー。

踊り子 おいしいわよ、もちろん。

旅芸人1 娘さん。大阪焼もおせーてくんない、ミカエラ学園って、どんな学校なんだい。

亜維子 あのね、ミッシヨン系の学校なの。

旅芸人3 おや、ヤソかい？

亜維子 それでえ、卒業すると、宝塚へいけんのよ。

(宝塚の曲が入り、それに合わせて踊る)

踊り子　　えつ、いいなア。あたしも、宝塚で踊ってみたいなア。（宝塚風の踊りを踊る）

亜維子　　あつ、いつけない。早くいかなくちやあ。

旅芸人 3　　それじゃ、わしらもいくとするかい。

旅芸人 2　　いらつしやい、いらつしやい。雲の上甚五郎一座だよー。

踊り子　　世紀のアナクロ伊豆の踊り子。

旅芸人 2　　一見一銭、太鼓テンテン、

旅芸人たち　　雲の上甚五郎一座だよー（と花道に去る）

（亜維子の前に、いつのまにか『聖末加江羅学園』という看板がある。）

（旅芸人、看板に掛かっている布を取ってから去る）

（亜維子、それをノックする）

亜維子　　あ、ここかしら。（コンコン、コンコン）お願いしまあす。あたし、転校生の美村亜維子です。

（扉がギギギーときしる音）

（女高生たち数十人が立っていて、合唱がはじまる。（『菩提樹』近藤朔風訳詞・シューベルト作曲）

（女高生たちは、上はセーラー服で、下はモンペである）

女生徒達　♪ 『菩提樹』冒頭を歌う

由紀 だいすけさあーん。(声のみ)

(照明がつくと、女生徒たちは狐面を着け、少女・平岩由紀が登場している。(上には夏のセーラー服、下はもんぺ)片目に眼帯)

由紀 だいすけさあーん。

由紀 だいすけさん、どこ、どこにいるの？ 由紀は、だんだん目がみえなくなってきたんです。

左目にもやがかかって、そのもやが島にみえるんです。島は、さんごしょうです。

だいすけさん、由紀の目の南のさんごしょうがしだいに大きくなっていきます。由紀は、それがとっても不安なんです。

きのうも夢を見ました。だいすけさんの戦闘機が、由紀の左目のさんごしょうに飛びこむ夢です。

朝、起きると、由紀は寝汗をかいていました。由紀の寝汗は、なめるとしよっぱいのです。

それは、まるで南海の海の水のようです。だいすけさん、早く元気なお顔みせて下さい。由紀は、たまらなく不安なのです。

(由紀がつつたつっていると、その背後から由紀に上着をかける者がいる。せむしの権左である)

由紀 だいすけさんね。

権左 いいえ、お嬢様、権左です。夜風にあたるとお体に毒です。

由紀 ああ、権左、おまえなの。

権左 へえ、お嬢様。

由紀 ねえ、なぜ、だいすけさんは、きてくださらないの？

権左 お忙しいんでしょうかなあ。でも、必らずきてくださいますとも。

由紀 わたしの左目のさんごしように大きくならないうちに？

権左 へえ、お嬢様。

由紀 左目のさんごしようにぐだいすけさんを飲みこむのよ。権左、わたしは、それがこわいの。

権左 へえ、お嬢様、心配ないです。先生様も、お嬢様の病気は、きつとなおるとおっしゃってます。さ、今日は帰りましょう。

由紀 (手をにぎろうとする権左をはらいのけて) 手をにぎるんじやありません！！

権左 へえ。

由紀 おまえは、俗物だから、わたしの心配がわからないのよ。

ほら(と眼帯をとる)わたしの目は、病気なんかじゃない。南のさんごしように(風の音)通底しているの。

(風の音、強くなって狐面たち、風にふかれる ●暗転●)

亜維子 あのお、聖ミカエラ学園は、ここでしょうか。

大介 娘さんは、どなたですか。

亜維子 美村亜維子です、転校生の。

大介 はて、どちらの？

亜維子 あ、日比谷高校から転校してきたんです。

大介 日比谷？松本楼だね。そんなところに女学校があつたかな。

亜維子 やだ。冗談ばっかし。おにいさんは誰？

大介 自分は、狩野大介海軍少佐であります。

亜維子 あ、わかった。警備員ね。

大介 はい、聖未加江羅学園の警護を兼ねております。

亜維子 やつぱし。あのお、園長先生は？

大介 きょうは、お休みであります。それより娘さん、そのチャラチャラしたスカートはなんですか？この非常時に。

亜維子 はい？あの、これは。

大介 非常時に、このような服装はいけません。銃後の守りにそなえて…。

亜維子 ♪(ジュウゴと聞いて『赤とんぼ』3番の冒頭を歌いおどる)

大介 歌が好きなのかね？

亜維子 はい。宝塚志望ですから。

大介 なに？宝塚志望？そうか、若い身空でけなげにも。

亜維子 はい。♪(『すみれの花咲く頃』冒頭を歌い、おどる)

大介 戦局はお国にとつて一大決戦をむかえ…。

亜維子 選曲は、なんでもOKよ。リクエストしてください？

ラップでも、きやりーばみゅばみゅでも。(少し歌う)

大介 なに？戦局がわかるのか？ミッドウェー海戦を知っておるのか？

亜維子 はい。そーねー、大介さんは阿部寛似だから、こうゆーの、いかが？

♪(『青い山脈』を歌う)

大介 うむ。しみじみとしたいい歌だ。(ふりむいて)なんだね、その歌は？

やだあ、『青い山脈』よ。知らないの？

大介 『青い山脈』？ふむ、支那の天山(テンシヤン)山脈のことかな？天山山脈のふもとのクーニヤンがね…。

♪(『蘇州夜曲』を歌う)

亜維子 やだあ、大介さんて、ユーモアのある方なのね。

大介 ユーモア？それはないが、婚約者(フィアンセ)ならある。

亜維子　まあ、ステキ。チュウってしたことある？エッチは？

大介　チュウ？エッチ？中国の変態ねずみのことか？

亜維子　やっだー、とぼけちゃってえー。キスよお。セックスよお。

大介　娘。

亜維子　はい。

大介　おまえは、さきほどから、敵性用語に詳しいようだが、どうもあやしい。

亜維子　なにがあ。

大介　思想にかぶれているのではないか。

亜維子　冗談コロッケよ。

大介　コロッケか？それなら知っている。♪（『コロッケの唄』を歌う）

二人　（腕を組んで踊り、一緒に笑う）

大介　アツハハハ

亜維子　（ポケットから煙草を出して火をつけ）大介さんも吸う？

大介　この、非国民！！（と殴る）

亜維子　アツ——（ふつとんでみごと着地）アホーッ。

●暗転●

◆二場◆

（ミカエラ学園の世界史の授業風景。年表がはってある）

シスター 1789年には何が起こったのですか？ 大島 1789年。大島真由美。

高河 はい、えーと。ひなわくすぶるバスチーユ。フランス革命。

シスター よろしい。それでは、375年は、山岸ミチル。

山岸 はい、えーと。375年は、ミナゴロシ。ゲルマン民族ミナゴロシ。ゲルマン民族の大移動です。

シスター よろしい。476年は。竹宮こずえ。

竹宮 はい、西ローマ帝国が減んだ年です。

シスター よくできました。では、1936年は。萩尾美佐世。

萩尾 はい。1936年。ひどくさむい日、ひどくさむい日、2・26。2・26事件です。

シスター よろしい。では、1917年には、何が起こったのでしょうか。美内。美内陽子。

美内 はい、あのお。浅草にアサヒのうんこビルが建った年です。

全員 えーっ！

シスター あなたは、うんこのことばかり考えてますね。違います。ロシア革命の年です。しばらく立っていないさい。

では、1492年は。大和和都子。

大和 はい。アメリカ大陸イシノクニ。コロンブスがアメリカ大陸を発見した年です。

シスター はい、よろしい。では、みなさん、2020年は。誰か、わかる人は。

全員 エッ——ゴニョゴニョ

青池 はい。

シスター はい、青池久美。

青池 あのお、世界大戦ニワーンニワーン。真実のマヤ暦が、世界の最後だと予言した年です。

シスター 最後の審判の年ですね。

いいですか。アダムとイブが楽園を追放されて以来、人類は歴史の中で、大きなあやまちをいくつか犯しました。

ひとつは、ダーウインの「進化論」。ひとつは、コペルニクスの「地動説」です。

どうして、それがあやまちなんでしょう、せんせい。

野村
シスター
ダーウインは「進化論」によつて、人間が神によつて造られたことを虚構にしようとはしました。

人間がサルから進化したといっているのですよ。

美内
シスター
ええー、だつて、動物園のサルはいつまでたつても、サルはサルですよー。

シスター
あなたはすわつてよろしい。そして、コペルニクスは、なんと、大地が太陽のまわりを回っているとほざいたのです。

大島
ウソツー。だつて、太陽は、東から昇つて、西に沈んでいきますよねえ。

大地が回っているなんてえー、わたしたち、目がまわっちゃう。(パタリと倒れる)

シスター
そのとおり。大島さんの言うとおりです。さあ、しつかりしなさい。(と起こす)

天と地の間に立つ、わたしたちの存在をおびやかす、悪魔の論理です。こうした人物たちは、主の御名において――

池田
牢屋にいられました。地動説を信じたガリレオ・ガリレイが、そのひとりです。

シスター
はい、よろしい。池田さんは、よく勉強していますね。

竹宮
せんせい！

シスター
なんですか？

遠藤
あのお、天草四郎はなぜ聖人としてローマ教会に認められていないんですか？

シスター
天草四郎ですか？あれはクリスチャンでもなければ、なんでもないただの邪教です。

幕府がキリスト教弾圧のためにでっちあげたものです。あんなものにだまされてはいけません。

全員
はい、せんせい。

シスター
わたしが、いつも言っているように、みなさんは、宝塚に行かねばなりません。

全員
はい、せんせい。

池田 そのためには、わたくしたちは、少女十字軍として――

全員 少女十字軍として、悪魔の学説と闘わなければなりません。

シスター よろしい。主よ、仔羊たちのけなげな心を守りたまえ。愛と精霊の名において――

全員 アーメン。

(亜維子、登場)

亜維子 あのう。転校生の美村亜維子です。道に迷って、遅くなってすみません。

シスター 転校早々、遅刻ですね。美村亜維子。

亜維子 すみません。

シスター それでは、亜維子さん。1932年には、何が起こったのですか？

亜維子 はい、あのお。いくさになってもしんのすけ。クレヨンしんちゃんが生まれた年。

全員 へえー。

亜維子 オラ、のはらしんのすけ、ねーねー、ナットウにタマネギ入れる方？

シスター ちがいます。では、1936年は？

亜維子 1936年。ひどくさむい日。

シスター そうです。

亜維子 ひどくさむい日、床暖房。(床に手をあてて) あちっ！ 床暖房が発明された年。

シスター 違います。

亜維子 あの、わたし。世界史得意じゃないんです。でも、あの、ファティマの予言、ファティマの予言なら知っています。

それと、あの、ノストラダムスの大予言も、五島勉センセの本で読みました。

あのー、五島勉センセイは何もなかった時、何といたしましたか。

シスター

知りません。あなたは、奇蹟体験！アンビリーバボーの見過ぎです。

五島勉センセイは、「だまして売ったものの勝ちや」と、言ってます。

亜維子

わたしはゆるしませんよ。

シスター

それより、美村亜維子、あなたは、転校早々、おにぎりを立ち食いしましたね。

亜維子

え！！ははは……どうして、どうして、わかるんでしょう。ははは……。

シスター

口元に、御飯つぶがついているからです。

亜維子

え！！（と口元に手をあて）あの、これは、これは、ホクロです。（ご飯粒をとってとばす）

シスター

白いホクロがありますかっ！！

亜維子

白いチャペルがあるんですもの。白いホクロぐらい、ホツカイローでは常識です。

シスター

池田さん。

池田

はい。美村亜維子。あなたは、転校早々、校則をやぶり、シスターに反抗した。

亜維子

いえ、そんな。

池田

よって、少女十字軍の名において、罰を加える。

全員

少女十字軍の名において罰を加える！！

亜維子

え！！そんな。ギャグでしょ？

大島

ギャグじゃありません。

（全員、ワーツと飛びかかる）

（亜維子、縛られて、空中に上げられる）

シスター 三日三晩、そうしていなさい。

亜維子 うそっ。やだあ。バカッ、アホッ。くそつたれっ。ペテン師っ、鬼っ。

シスター ほっほっほっ。(去る)

池、大島ら (現在のセーラー服姿の女生徒数名『新宿そだち』四番(別所透作詞・遠藤実作曲)を歌いながら、与太って登場。美内、竹宮、大和、青

♪ 『新宿そだち』四番を歌う

大島 おい、コーク。

竹宮 はいよ。(コカコーラを出す)

大島 ちげーよ。(竹宮の頭をなぐる) (美内がそのコーラをのむ)

青池 はい。(とコークを出す)

大島 今時シンナーか。これ純度悪いじゃん。

竹宮 だつてよお、このへんじゃロクに売人(バイニン)もいねーもんな。(美内に) なつ。

美内 なつ。

菊地 なつ。

大和 (吊り上げられている亜維子に) おめーもすいてーだろー。ほらすうか？(と足元に火を近づける)

亜維子 あついよお、SMはいやだよおー。

美内 おめーもトップポイヤろうだなー。

青池 これはホクロです、だもんね。

亜維子 おおきなお世話よ。

美内 まあ、こうやってツルシ柿になりや、ざまーねーな。

大和 こら、転校生、なんかみやげものも持ってこなかったのかよお。

亜維子 ないよ、なーんにも。

大島 チェ、しけたやろーだな。

菊地 おめー、エンコーやったことあんの？

亜維子 あつたりまえじゃん。エンコーやった相手は3年の担任になって高校をクビになったんだから。

竹宮 へえーよくいうよ、このサルが。

亜維子 うるさい、チンパンジ！

大和 (亜維子に近付いて) どれどれなんか持つてるぜ。お、これリタリンじゃん。

亜維子 この水のみ！百姓！エルだよお。

女生徒たち (驚いて口々に) うえー。

亜維子 やるからさあ、はやくナワをほどいてよお。

菊地 いいな。あたしもシヤバにでてエンコーやってブランドもの買ってーよ。(美内、LSDを飲んで突然おかしくなる)

青池 あたいは、宝塚の舞台で早く踊りたいなあ。♪(『愛あればこそ』一部を歌う) 「アンドレ、私を抱け！」

え、抱け？抱けだなんて、やーん、エッチ！

よつくいうよ、

このカマトト。

青池 (ふりかえって) なによお。

竹宮 おめーなんか、宝塚の舞台に立ちやションベンちびらあなあ。

青池 パーカ。

大和　　しっかしよお、あの池田のやつも、シスターにゴマばつかすってよお、やーなやつよなあー。

菊地　　ふざけろよー。

竹宮　　ありや、ユートーサーぶりっ子だからよお、一発かましてやりやいいのよ、ビールビンで。

大島　　少女十字軍の名において

青池　　アヒッ

菊地　　なーんちゃって。(全員、笑う)

巫継子　　はやく、ナワをほどいてよお。

(チャイムが鳴る)

竹宮　　あつ、いけねえ、5時間目が始まらあ。(と全員去る)

巫継子　　この！イナカものー。

由紀　　だいすけさん、だいすけさん、由紀です。だいすけさん、病床から抜けてきました。時間があんまりないのです。

はやくお顔をみせて下さい。

大介　　心配しないで下さい。由紀さん、大介はここにいます。

由紀　　あ、大介さん。由紀の左目にもやがかかって、さんごしよ島の島になってしまいました。

大介　　気を鎮めて下さい。

由紀　　いいえ、大介さんの戦闘機が、由紀の左目の南のさんごしよに飛びこむのです。おとついても、きのうも同じ夢を見ました。

大介　　熱のせいじゃないですか(と手をおく)

由紀　　いいえ、大介さん、由紀はとつても不安なのです。

大介　　大丈夫です。聖未加江羅学園の園長も、わたしたちに協力してくれるようになりました。

まもなく、戦局は、好転します。そして、わたしたちの至福の時がやってくるのです。

由紀 大介さんは聖未加江羅学園に脱けることができましょうが、由紀はできません。

大介 それにもまして、わたしの左目の病い、大介さんあなたはもう未加江羅学園から手をひいて、わたしの元ですっというて下さい。それは、できません。

由紀 そうでないと、大介さん、あなたはこちらの人でもあちらの人でもなくなってしまうような気がするんです。

大介 心配いりません。宝塚志望の女生徒たちが、わたしたちに協力してくれるのです。

それに、少女十字軍がきつと、戦局を好転してくれるに違いありません。

由紀 いいえ、大介さん。ヤソに頼ることがそもそもまちがいです。彼らはきつと裏切ります。

大介 まさか（と笑う）園長が裏切るわけではない。それとも……。

由紀 転校生です。園長ではありません。転校生です。

大介 なに？

由紀 転校生がくるはずですよ。それを早く始末してしまいなさい。

そうでないと、大介さん、あなたは二度とわたしと出会うことができなくなります。

大介 転校生？……

由紀 そうです。わたしの左目には、さんごしよう。わたしの右目には黒い点がみえるのです。

この黒い点は、まちがいでなく、不吉な転校生です。……由紀はもうすぐ目がみえなくなるでしょう。

大介さん、その前に、早く、祝言をあげて下さい。

大介 （沈黙）あの小娘か……由紀さん、失礼します（と敬礼して去る）。

由紀 あ、大介さん、待って下さい、大介さん。

権左 もう帰られましたただ、お嬢様。

由紀 え？ああ権左ね。

権左 困ります。だまってお屋敷を脱けられては。

由紀 ごめんなさい、権左。由紀はたまらなく不安なのです。

権左 大丈夫です。きっと大介さまは、お嬢様と、そいとげて下さいます。

由紀 そうだといんだけど……。

(亜維子の声だけける)

亜維子 ちよつと、あんたたち誰よ。

由紀 えつ。

亜維子 みえないの？あたしよ、こんなところに吊るされちやつて。縄をほどいてよ。ねえ、助けてくれない。

由紀 権左！誰かが何かいつてる。どうにかしてあげ。

権左 へえ、お嬢様。しかし、どちらでしょう。

由紀 さあ、わたしには声しかきこえません。きつとあちらの人でしょう。

権左 へえ、そういえば、なにか縄のようなものがぼーつと見えております。

亜維子 わからないの？あたしには、あなたたち二人の姿はよく見えるわよ。縄をほどいてよ、感謝するからさあ。

権左 (縄のところ上がり) お嬢様、どうもこの縄らしいです。人の影がみえます。

由紀 はやくしてあげ。

権左 へえ(縄をほどき、亜維子を降ろす)

亜維子 ありがとう。

権左 いえ、とんでもないです。

亜維子 ほんと苦しかったんだから、権左さんね、どうもありがとう、助けてくれて。

権左　いいえ、とんでもないです。

亜維子　わたし、美村亜維子。今度、ミカエラ学園に転校してきました。

権左　へえ。

由紀　転校生？

権左　へえ、お嬢様、転校生だそうです。

由紀　消しておしまい、権左。

権左　だども、影しかみえませんが。

由紀　その影を消すのです。

権左　へえ、お嬢様（というやいなや、亜維子に飛びかかる）

亜維子　（すつと逃げて）なにすんのよ。

権左　お嬢様の命令です。 （とカマをもって飛びかかる）

（亜維子逃げる。権左と格闘シーン。——相打ち、権左は亜維子にやられ、投げとばされる。亜維子、逃げる）

権左　お嬢様、もうしわけありません。とりにがしました。

由紀　そうですか。あれが転校生。私達の姿が見えるなんて、おそろしい。

●暗転●

◆三場◆

シスター

主よ、平穏な時間をいつもありがとうございます。仔羊たちは、きょうもすこやかに眠りにつきました。あなたの慈悲に感謝します。慈悲といえば、きょう、転校生の美村亜維子が、ミカエラ学園の校則をやぶって、反抗的な態度をとりましたが、わたしは慈悲の心を忘れず、つるし柿にするだけにとどめました。なにしろ、つるし柿は、シブ柿を甘くするための主の教えです。あなたに、きょうも感謝します。（と祈る）

（旅芸人たち、花道から登場する）

旅芸人1

あのお、おそれいりやす。

シスター

はて、どなたですか？

旅芸人1

はい。雲の上甚五郎一座です。一夜（いちや）の宿をお願いにまいりました。

シスター

当学園は、男子禁制ですので、とてもそういうわけには、まいりません。

旅芸人2

しかし、今、慈悲とおっしゃってたではありませんか。

シスター

ホッホッホ、お慈悲ですか？ 乞食のように、一夜（いちや）の宿をたのむあなたがたが、慈悲とは……。

踊り子

しつれないな。わたしたち雲の上甚五郎一座はですね、何もタダで宿を貸してくれなどと言ってるのではないんですよ。

シスター

はて？では何を。

旅芸人1

わたしたちは、あなたの魂の暗部をてらしてみせます。

シスター

魂の暗部？よろしい。では、いったいどのようにして。

踊り子

ひとつ。ミカエラ学園は、なぜ男子禁制なのでしょう？

シスター

それは、昔からの伝統です。

踊り子

ひとつ。ミカエラ学園は、なぜこんな人里離れたところにあるのでしょうか？

シスター

それも、昔からの伝統です。

旅芸人1　　いいえ、シスター。それは伝統ではないはずです。そうしなければいけない理由があった。

シスター　　（ギクツとして）まさか。

旅芸人2　　まさかりかついだ金太郎。

シスター　　そんなことが。

旅芸人1　　琴欧州か稀勢の里。（歌と踊りはじまる）

♪　天神さまの　おあそびに　おどろく　きつねの　尾はまるく

天神さまの　おなげきに　かくれた　たぬきの　めは　くろく　びらり　びらり　ぼぼちち

ニワカじゃ　ニワカじゃ　みな　きいや（途中から大滅亡に変わる）

踊り子　　わたしたち雲の上甚五郎一座は……シスターが伝統の名のもとに閉じ込めた魂の暗部を再現できます。

お代はみてのおかえりだよお（トントンと太鼓を叩く）

シスター　　すると、あなたたちは、あの噂の——。

旅芸人1　　そう、雲の上甚五郎一座だよ。ひとは忘れた夢を見る。

踊り子　　はかない夢も一夜ゆえ、いつかは再び見たいもの。

旅芸人2　　だまって座ればピタゴラス。

旅芸人1　　三角形は底辺×高さ÷2で面積が出る。底辺は思い出。

踊り子　　高さは恋。

一座の五人　　思い出×恋÷2は？

シスター　　ああ。そんなことを前にも聞いたような気がする。

一座の五人　　それは——。

シスター

それは……わたしが16の時だった。あの人は、夕暮れになると、いつも木陰で、ツルゲーネフを読んでいた。わたしは、学校が終わると毎日、あの人の待つ公園の木陰へ、坂道を駆けていった。坂道は、およそ90メートル。わたしは、秒速3メートルで走った。わたしは、10秒後には、30メートル坂道を駆け上った。その間、あの人は、ツルゲーネフを8行読んだ。そう、わたしが坂道を30秒で駆ける間に、あの人はツルゲーネフを240行読んだ。でも、わたしは、ある日、思った。なぜ、わたしが坂道を駆ける間、あの人は、ツルゲーネフの詩を読み続けるのでしょうか。もし、わたしが坂道の下に立った時、あの人が坂道を走ってきてくれれば、いつたい坂道の下で、わたしは何をすればいいのでしょうか……。

(この間、ツルゲーネフを読む男の後ろ姿が見える)

踊り子

そうだ。わたしもツルゲーネフを読めばいい。

(いつの間にか、亜維子、四人のやりとりを見ている)

シスター

そう、わたしはそう思って、ある日、坂道の下でツルゲーネフを読んだ。あの人はひよつとして、坂道を駆けおろる。いいえ、きつと坂道を駆けおろってくるに違いない。その時、わたしはツルゲーネフを読む。あの人が坂道をおりてくる。わたしはツルゲーネフを読む。だけど、4行読んでもあの人は来ない。

踊り子

8行読んでも、あの人は来ない。

シスター

16行読んでも、あの人は来ない。

旅芸人1

なぜだ。どうしてだ。

シスター どうして、どうしてなの。

踊り子 32行読んでもあの人は来ない。

旅芸人1 64行読んでもあの人は来ない。

シスター その時、わたしは、ふと我に帰った。

旅芸人3 もう、夕闇が辺りに漂っていた。

シスター 気づくと、わたしは――。

一座の五人 ツルゲーネフを3000行も読んでいた。

シスター いけない。約束の時間に遅れる。わたしはあわてて、いつものように坂道を駆け上った。秒速は3メートルを超えた。

一座の五人 しかし、その時間の長かったこと。

シスター わたしは走った。

一座の五人 秒速は5メートルを超えた。

シスター しかし、その時間の長かったこと。

そう、わたしが坂道を登りきった時……いつもの木陰には……あの人の隣りには、すでに……。

一座の五人 すでに――

シスター わたしが、もうひとりのわたしが立っていたのよおッ――

(男の隣りには、もうひとりのシスター(踊り子)の姿が見える)

(ここで、三田明の『美しい十代』(宮川哲夫作詞・吉田正作曲)一番がはいる)

♪ 『美しい十代』一番がかかる。

シスター
わたしが、いつものように、あの人の隣りにいるなんて……うそだ、うそだ、うそだ！では、わたしはいったい誰なの。

旅芸人 1
その時、あなたは、何かを超えた。

シスター
いいえ、わたしは、ただ『美しい十代』の歌が、なんて残酷なものだろうと思った。

わたしは、いつもの坂道をのぼることをやめて、あの人の気持ちを知りたくて、ツルゲーネフを読んでいただけなのに……

わたしは、声をあげて、あの人の名を呼んだ。

しかし、あの人は、もうひとりのわたしと、いつものように、楽しげに話しているだけで、わたしの声はとどかなかったのよ。

踊り子
遅れてしまった放課後の

旅芸人 2
とりもどせない思い出は

一座の五人
あなたの心で泣いている――。

(女生徒たちが、いつせいに笑う。(声のみ))

シスター
わたしの青春をかえせ

女生徒たち
わたしの青春をかえせ(こだまする)

踊り子
あなたの青春なんて知らないよ。

旅芸人 1
あなたの青春なんて知らないよ。

シスター
わたしは、神に祈った。何ゆえに、わたしがこんな目にあわなければいけないのかを。

旅芸人 1
神はなんと答えたんだい。

シスター
ツルゲーネフの本は、「初恋」だったわ。

踊り子
神はなんと答えたんだい。

シスター
初恋よ。わたしは、初恋の人を忘れられない。そのために、こんな目にあつたと。

3000人の乙女たちが、まだ初恋を知る前に神にささげよと。

わたしはその時から、さまよえるミカエラ学園のシスターとなった。

踊り子 答はでしたね。

旅芸人3 ミカエラ学園は、なぜ男子禁制なのか。

踊り子 それは伝統ではない。

旅芸人1 ミカエラ学園は、なぜこんな人里離れたところにあるのか。

踊り子 それは伝統ではない。

シスター あなたたちは誰なの？

(踊り子、忍術で煙をだす。三人、笑いながら消えていく)

●暗転●

(音楽。明るくなる。花道より女生徒たち出てくる)

♪ 全員の歌

かえして わたしの 初恋の 記念写真の あの頃に いいえ それは 出来ません 天使がはばたく その日まで

あなたは涙を捨てなさい 誰が時計をこわしたの 誰が天使を殺したの

かえして わたしの 初めてのの 胸のときめき 今すぐに いいえ それは 出来ません 天使がはばたく その日まで

あなたは 記憶を捨てなさい 誰が時計をこわしたの 誰が天使を殺したの

(女生徒たち去る)

シスター　世の中が悪いのよ。祈りを忘れてしまった罪よ。みなさい。『エッグ』のポルノ記事を。『ランズキ』の記事を。

(シスター、雑誌を開いてB1の記事を読む。)

清らかで美しい青春は、もうこの国からは消えてしまいました。まあ、おぞましい。『純愛エゴイスト』ですって!!

これも、ダーウインの「進化論」とコペルニクスの「地動説」のあやまちがもたらしたものです。

モーゼの十戒を思い出して下さい。汝、姦淫するなかれ。わたしは、初恋も知らぬ女生徒たちを集め、

神聖なる戦いのために、少女十字軍を建軍したのです。少年たちは、オタクになっていきました。

もう、この国では、少年たちに期待することなど出来ないのです。徴兵制?そんなもんがなんになるのですか。

オタクの軍隊など世界で一番軟弱にまっています。さあ、わたしの女生徒たちよ。今から、闘いの訓練です!

(手に、様々の武器を手にした女生徒たちが体操着で、いっせいに現われる)

宝塚に行くためには、からだをきたえなくてはなりません。この金網デスマッチできたえるのです。

さあ、竹宮さん、大島さん、はじめなさい!

(舞台は金網によって囲まれ、その中で、訓練が繰り返される。戦闘訓練を遠くで見ながら、亜維子、池田と対話する)

亜維子　ねえ、あなた、なんであんな訓練が必要ななの?

池田　宝塚よ。おお、あこがれの宝塚! わたしたちは宝塚へ行くの。そのためには体をきたえなくてはいけないの。

だって宝塚の舞台では、ある時はカルメンのようなジプシーにならないし、

ある時はフランス革命のオスカルにならないわ。だから、わたしたちは訓練をつむのよ。
ふーん、大変ね。

池田 長い道のりよね。

亜維子 でもあなた、この世の中で一番長い道のりってなんだか知ってる。

池田 さあ。

亜維子 わたしは知ってる。エルサレムよりも、パリよりも、もつともつと長い行進。それはね――時間。

池田 時間？

亜維子 わたしは、遠いところからきたの。

池田 ふーん。

亜維子 それは、シスターも知らない遠いところよ。

いい？あのシスターは、その昔、少年十字軍を奴隷に売りとぼした商人と変わらないのよ。

池田 そんな。

亜維子 わたしは、聞いちゃったんだから。あの人は、ゆがんだ記憶と闘っているだけなのよ。

池田 あなたは洗札をうけなさい。

亜維子 洗札？そんなものがいったいなんになるの。

池田 まあ、不謹慎な。あなたは悪魔の学説を信じているんじゃないの。

亜維子 地動説も、進化論も、及びつかないものが、この世にはある。

池田 なに、それ？

亜維子 それは、ね……ほら。

(薄明りの中に由紀が見える。由紀は髪をといている)

（『花嫁人形』（露谷虹児作詞、杉山長谷夫作曲）が流れる）

（由紀の背後に大介と二名の海軍兵士たちが現われ、由紀の帯をほどく。音楽つづく）

（由紀はもがく。帯は解かれ、クモの糸のようにひろがっていく）

由紀

だいすけさあーん。

（海軍兵士たち、かまわず由紀を抱く。ひとりが由紀を抱くと、他の兵士たちがあふれる）

兵士

宝塚はまだか。

宝塚はまだか。

宝塚はまだか。

宝塚はまだか。

池田

あなたは魔法を使うのね。

亜維子

魔法？

池田

あなたは悪魔の学説を信じているだけではないわ。あなたは悪魔そのものよ。

亜維子

悪魔にこんなものがあるかしら。

（亜維子、ゆつくりと、上着を取り、池田に背中を見せる。池田は、この世のものではないものを見たかのようにおどろく）

シスター

（遠くから）池田さん、美村さん、何をしているのです。訓練に加わりなさい！

全員

やー、やっやっやっ

●暗転●（懐中電灯）

（暗闇の中に女生徒たちの声が聞こえる。（顔だけが次々照らされる））

女生徒 A 紅

初恋地獄の黒髪の、

B 結んだリボンの約束は、

C ほどけてしまつて血まみれの、

D 噂も消えて地の底へ、

E しつ。誰かが満月の下で泣いている。

A ウスバカゲロウの羽音がとだえても、

B おみなえしの花がゆれても、

C 誰かの泣き声が消えない。

D 忘れられた人よ。

E 思い出せない人よ。

A 予言のとおりね。

B 8月余日の黒ミサの、

C 地獄におちた仔羊が、

D まもなく約束の日がくる。

E しつ。まだ泣き声が聞こえてくる。

B 天使の泣き声だわ。

- A 扉の向こうにつるされた、
C 一万一千余の天使が、
D そんなはずはない。
E じゃ何？
A まだ誰も気づいていない。
B するとあの日の。
C 水平線のかなたから。
D するとあの日の。
E まだ光が足りない。
E まだ光が足りない。

全員

(明り、消える)

◆四場◆

(少年十字軍の行進が続く——(ハンスは亜維子))

フランソワ マルセイユはまだなんだろうか。

ヨハン 聖地エルサレムまでに僕たちはどれくらい進軍すればいいんだろう？

(彼らは、ほとんど傷つき、力つきようとしている)

マルコ　　（僕はもうだめだ。熱病が（と、倒れる））

ハンス以外全員　　しっかりするんだマルコ。（ハンス、マルコを起き上がらせる）

マルコ　　いいえ、僕にはかまわず、みんな行ってくれ。僕は足手まといになるだけだ。

ハンス　　がんばるんだマルコ。セルジユクトルコに奪われた聖地エルサレムを奪い返そうと、パリで誓ったことを忘れたのか？

マルセイユにたどり着けば、そこは地中海だ。地中海は、その時、僕たちの祈りを受けて、まっぶたつに割れるんだ。

ミッシェル　　地中海の割れた道を僕たちは、エルサレムまで一直線に進めばいいんだ。

マルコ　　だめだよ、ハンス。もう一歩も歩けない。これ以上は、みんなに迷惑をかけるだけだ。

ハンス　　がんばるんだよマルコ。さあ、僕の肩につかまれ。

ピエール　　（遠くから手をふって）おおい、マルセイユだぞおー。海が、地中海が見えるぞー。

全員　　マルセイユだ、マルセイユだぞー。

（マルコ、ハンスを見てにこっと笑い、ばったりと倒れる）

ハンス　　マルコッ。

ハンス以外全員　　マルコ、しっかりするんだ。

マルコ　　みんな、僕の方も戦ってくれ。（マルコ死ぬ）

全員　　マルコッ――

（ピエール、走ってくる）

ピエール　ああマルコ、やっと地中海が見えたのに……。

ハンス　天にまします我が父よ、少年十字軍に志願し、力つき倒れたマルコを天国の門にお誘い下さい。

全員　アーメン（泣く）

ハンス　みんな、泣いているひまはない。マルコの分も僕たちは戦わねばならない。

ピエール　そうとも。大人たちの十字軍は、ことごとく失敗したけれど、

汚れを知らない僕たちの十字軍は、必ず成功するとローマ教皇がおっしゃったではないか。

ハンス　さあ祈ろう。モーゼの時のように、地中海がまっぶたつに割れるまで。

全員　天にまします我が父よ、僕たち少年十字軍は、

セルジュクトルコに奪われた聖地エルサレムを奪回するために、ここまでやってきました。

さあ、今こそ、僕たちの進軍のために地中海の道をお開きください。アーメン。

（全員、祈る）（波の音——）

ヨハン　なぜだ、地中海は静かだ。僕たちの道が開かれない。

ハンス　そんなことはない。もうすぐだ、みんな祈ろう。必ず、地中海はまっぶたつに割れるはずだ。

（再び祈る）

（音楽と波の音——。音楽変わって）

フランソワ　だめだ。地中海はまっぶたつに割れない。

(そこへ、船員たちが、背後から、少年たちをつかむ)

船員A さあ、小僧たち、船が出るぞ。

ハンス えつ、じゃあ僕たちをエルサレムまで連れていってくれるのですね。

ミッシェル やった！神はぼくたちに救いの手をさしのべたのだ。

(ミッシェル、フランソワ、船員Aのところに向けよる)

船員A 甘ったれんじゃねえ！！(ミッシェルを殴る)

フランソワ (ミッシェルをかばって) 何するんだよ。

船員A いいか、お前たちはな、アフリカに渡るんだ。アフリカに渡って奴隷になるんだ。

ほら、ここに証文もあるんだぜ。おーい野郎ども、全員ふんづかまえて、船にのせろい。

船員たち オーツ！

(少年十字軍は疲れきっているため、荒くれの船員に抵抗しくつかまえられ、順次消える)

(最後まで闘ったハンス。三人の男たちに羽がいじめにされ、叫ぶ)

ハンス 嘘だ、嘘だ、わが父、わが神、なぜ僕たちを見捨てるのですか。

僕たちはあなたのために聖地エルサレムを奪回するために、ここまでやって来たんです。

船員A 小僧！！うるさい(と殴る)

ハンス 嘘だ、嘘だ。わが神よ、地中海はなぜ二つに割れない。(船員の手をふりきって)なぜ、僕たちはエルサレムに行けないんだ。

なぜ僕たちは奴隷にならなければならないんだ。

全員

ハンスーッ。

ハンス

僕は信じない、何かのまちがいだ。

船員B

やかましい（と殴ると、ハンスがくつと膝をつく。）

ハンス

そうか……これがあなたの僕たちへの仕打ちか。

僕たちはあなたのために、こんな仕打ちを受けるためにマルセイユまで来たというのか？（笑う）

僕たちをアフリカの奴隷にすることが、少年十字軍の結果だというのか、汚れを知らぬ子供たちの十字軍が成功するという、

ローマ教皇の言った言葉も嘘ならば、聖地エルサレムを奪い返す十字軍も嘘だ。神はどこにいるというのか。

今すぐ僕たちを救ってみせる。さあ、今すぐ子供達を救ってみせる。僕はこの仕打ちを忘れやしない、忘れることはない。

千年たっても、二千年たっても、僕は……僕は……

（船員たち、ハンスをつれていく——。）

●暗転●

◆五場◆

（音楽と共に、女生徒たちによって、宝塚歌劇風の（『夢の馬車』）とシヨウが展開される）

♪

『夢の馬車』を歌い、踊る

シスター (パチパチと拍手) はい、よろしい。みなさん、それだけ出来れば、宝塚はもうすぐです。

(女生徒たち、「わあーっ」「やったっあー」と喜びの声)

全員 みんな、先生のおかげです。

シスター (ニコニコして) いいえ、みなさんの努力のたまものです。

聖ミカエラ学園の校則を守り、初恋も知らず、努力に努力を重ねた、みなさんの成果です。

全員 せんせい！(と、シスターと抱き合って泣く)

シスター おー、よしよし、よくがんばりましたね。萩尾さんも、青池さんも、池田さんも。

亜維子 あのう、あたしは……宝塚にいけないでしょうか。

シスター おや、美村亜維子。あなたは、まだいたんですか。

亜維子 だって……だって……あたしは、主役なんだから。

シスター まあずうずうしい、主役ですって！！この芝居は『聖ミカエラ学園』ですよ。その学園のシスターであるわたしが主役です。

亜維子 またあ、ほんと？

シスター ほんとです。さあ、早く阿佐ヶ谷の総武線でおうちに帰りなさい。(※罫線部は劇場の沿線、次回作。)

亜維子 わたしが主役だってば！！作者の高取さんがお前が主役だって…。

寺山修司没後三十年！寺山修司の『百年の孤独』も主役、そういわれたんだもん。

シスター まあ、ずうずうしい。チラシを見てご覧なさい。『百年の孤独』、どこにあなたの名前があるんですか？

亜維子 あり？作者と演出家の名前しかない。ちなみに『万有引力』は『邪宗門』を座・高円寺で同じく七月に上演。

「ぶつかっては」いません。

シスター (エヘンと咳払いをし) では美村亜維子、主役なら主役らしく踊ってみなさい。

亜維子 えーっ、あたし、あの、踊れません。

シスター ほら、みなさい。踊りもできないで、どうして宝塚へ行くんですか。

亜維子 でも、あの。

シスター でも、も、あのー、もない。

亜維子 あたし、これならできます（と一輪車）はいっ、おっとととと（乗る）ね、あたしも宝塚へ行けるでしょ。

シスター ふんっ、一輪車じゃ、サーカス団へでもいくのがふさわしいわい。

美内 バーカ。

全員 バーカ。はっはっは（と笑う）

亜維子 ちえっ、作者のやつだましたなア。バーカ、バーカ。

（そこへ大介がやってくる）

大介 シスター、あ、いた、こいつだ、転校生。

亜維子 あ、警備員のおじさんだ。ね、みて、わたし一輪車に乗れるんだよー（と乗って）ほら、宝塚へいけるよね。

（大介、いきなり斬りつける）

大介 小娘っ、死ねっ！

亜維子 なにすんだよおー（と逃げる）このお。

大介 まてーっ、こらあー、しまった、取り逃がしたか……。

シスター どうしたんですか、大介さん。

大介 いえ、あの小娘が、わたしたちの計画に邪魔なもので（と、シスターに耳打ちする）

シスター なに、大丈夫ですとも。あんな小娘の一人や二人、心配いりません。ミサの日にちゃんと処刑します。

さあ、みなさん、紹介しましょう。この方が宝塚のプロデューサーの狩野大介さんです。

大介 狩野です、よろしく。

全員 わあーっ（と近寄ってガヤガヤ）

シスター 整列なさい。

全員 はい、先生。

（狩野大介は、一人一人を面接していく）

大介 君の名前は？

大島 大島真由美です。

大介 教育勅語を暗唱しているかね。

大島 はい。「わが我カ臣民、よ克ク忠ニ、よ克ク孝ニ、おくちよう億兆心ヲいつニシテ、

よよ世々、そ厥ノ美ヲな済セルハ、こ此レわが我カ国体ノせいか精華ニシテ、教育ノえんげん、また亦実ニこ此ニ存ス。」

大介 よし。君は？

青池 青池久美です。

大介 アメリカ合衆国の犯した過ちは？

青池 はい。インディアンを虐殺です。それは主の教えにそむくものでした。

ローマが異民族をバルバロイと呼んだように、ローマ的なるもののおごりとたかぶりです。

大介 うむ。よく揃った。御苦労だったね、シスター。

シスター
いいえ、とんでもない。これで、わたしの罪も救われようというものです。さあ、乾杯しましょう（とぶどう酒）

大介
うむ。

シスター
宝塚へ行く聖ミカエラ学園の生徒たちのために、乾杯！

全員
乾杯！

萩尾
あのお。

大介
なんだね。

萩尾
わたしたちの最初の舞台は何ですか。

大介
それはね、戦記大作だよ。海軍兵士たちとの大ロマンズ、題して『帝国円舞曲』。君たちは、いわば、ナイチンゲールだね。

全員
ワァーッ、カッコイイ。

大介
君たちは、舞台の上で初恋を知るのだ。青いスポットライトを浴び、君たちは、帝国海軍兵と恋におちる。すばらしいだろう。

君たちはその時、白馬の騎士の手で、入学以来はめられていた貞操帯をはずしてもらおうわけだ。

ほら、これがカギだ。（と、カギの束）一号の貞操帯は誰かね。

山岸
わたしです。

大介
一号のカギを持つ白馬の騎士は、海軍一等兵山崎一馬だ。よく覚えておきたまえ。

山岸
はい。

大和
なんかよお、デキレースみたいな話じゃん。まるで従軍慰安婦じゃん。

シスター
大和和都子、反抗するな（と殴る）それとも、貞操帯をつけられたまま、一生、ミカエラ学園にいたいのか。

大和
いいえ、先生。

シスター
よろしい。

（花道からシスターA、走ってくる）

シスターA 園長！日比谷高校からの報告です。日比谷高校に、美村亜維子という女生徒は、入学した事実がないとのこと。

シスター なに！？それじゃあ、あの娘（こ）は！！

大介 もう時間がありません。シスター、ただちに、ミサの準備をしてください。あの小娘を処刑するのです。

シスター さあ、全員、ミサの準備です。いけにえとして、美村亜維子をひつとらえるのです。

全員 はいっ、せんせい！

池田 少女十字軍、美村亜維子を捕獲せよ。

全員 はっ。

（池田を先頭に、全員、花道に走って去る）

シスター 大介さん、これでいいのですね。あの美村亜維子を処刑し、ミサとともに、女生徒たち三千人を宝塚へ送りこめば。

大介 戦局は好転し、大東亜戦争は、必ずアジアを解放することになるでしょう。

兵士たちは、宝塚の少女の肉体を与えられることで、活力をとり戻します。

少女十字軍は、宝塚、いえ、従軍慰安婦と海軍の兵士として二重の働きをするわけですから。

シスター それによって、わたしはツルゲーネフの『初恋』の日にまで、戻ることができるわけですね。

大介 園長、いよいよミサの日です。

シスター ええ、大介さん。ミサの日に祈りのあと、ミカエラ学園のあかざの扉が開きます。

一万一千の閉じ込められた天使の力を借りて女生徒たち三千人が、こちらの世界から、あちらの世界へ送りこまれるわけです。

大介 ふっふっふっ……

シスター ほっほっほっほっ……

大介　これで世界は、大日本帝国をもとに統一される。

シスター　では成功を祈って大介さん、一曲踊りましょう。

大介　いいでしょう。

(音楽にのって大介とシスターが踊る)

シスター　(踊りながら) ねえ大介さん、できるものならこのまま永久に、わたしはあなたと踊り続けていたい。

でもあなたはあちらの世界の人、わたしはこちらの世界の人。わたしは、あちらの世界にいくわけにはまいません。

(踊りながら、大介に抱きつくシスター。大介、それをやさしく受ける)

(そのシーンを、いつの間にか、権左が見ている)

大介　わたしはむこうにファイアンセがいます。

しかし、せめて、今夜だけは、あなたと一夜をともにしましょう。(権左去る) あなたの「初恋の日」のために。

シスター　あなたの海軍とわたしの宝塚の結合のために。

女生徒　あー、せーんせー、いつけないことしてるう。

(女生徒が一人立っている(マスクをしている))

(二人はぱつと離れる。シスターは身づくろいをして、大介は、席につき、せきばらい)

大介　うおっほん。

女生徒

すすんでるう、海軍兵士とシスターの恋なんて。まるで映画みたい。

シスター

なにを言ってるんですか。今、大介さんには、地理学の教師として、ご講義を受けていたのです。

(大介あわててホワイトボードに世界地図(ヨーロッパ)と日本地図を描き)

大介

ごらんなさい。これがヨーロッパ。そして、これが大日本です。

なぜ、わたしたち大日本帝国が、世界の盟主になるかというのは、この日本をみればわかるはずですよ。

(大介は、ホワイトボードを見て必死に講義。シスターは身づくろいして、正面を見ている)

(女生徒は講義を聞きながら、ハンバーガーを食べている)

大介

日本は、世界そのものです。寒い北海道は、さしずめロシアであります。

リアス式海岸もある東北は、北欧に匹敵するわけです。

ならば関東はどこか、これはもちろんフランスです。東京はパリです。

そして、愛知県の知多半島こそがイタリアであり、スパゲティはきしめんです。京都はまあ、スイスでしょう。

新潟県がイギリスであり、スコットランドは佐渡ヶ島です。

女生徒

九州は？

大介

九州こそは、アフリカであります。形がよく似ています。ですから、九州人はアフリカ人です。

女生徒

紀伊半島は？

大介

スペインです。

女生徒

四国は？

大介 四国は、黒潮の熱さによって、さしずめインドであります。このように、世界の縮図として、大日本帝国があるがゆえに。

女生徒 うそつけー、インドでカツオのたたきが食えるか、高知県のカレーなんてまずいぞおー。

大介 うぬ、反抗的な！

女生徒 ベエーッ（とマスクをとると、亜維子）

シスター あなたは！！

亜維子 あんたたちの話は全部聞いちゃったよ。

大介 貴様！！

（と、刀で斬りかかる）

（亜維子、黒板消しで真剣白刃どり。そして、鉄パイプを持って闘う）

（亜維子は強い。組み合って――）

大介 小娘、なかなかやるな。

亜維子 へへへへ、へなちよこ。

大介 死ねっ（と上を斬る）

亜維子 はーっ（と大介の腹をつく）

大介 うぬ、北辰一刀流のイナズマ斬りをみよ。

亜維子 あ、由紀さんがいるよ。

大介 なにっ（と横を見る）

（亜維子、大介の刀をけりとばす）

大介 うぬつ、小娘っ！（大介、ピストルを出して撃つ）

亜維子 あっー。（と傷つき逃げる）

シスター 大丈夫ですか、大介さん。

大介 無論です。それより手ごたえがありました。あやつは、今のピストルで、確かに傷を負ったはずですよ。

シスター そうですか。このミカエラ学園から逃げることはできません。

必ずミサの日には、少女十字軍が彼女をひつとらえて、処刑してみせます。

いけにえは、元気なほうが処刑のしがいがあるというものです。

大介 わたしは、ミサの日、海軍兵士たちとともに、女生徒たちを待てばいいのですね。では、再び。

二人 乾杯！（飲む）

シスター ほっほっほっほ……。

大介 はっはっはっは……。

● 暗転 ●

◆ 六場 ◆

由紀 （眼帯なし）権左、ミカエラ学園での大介さんの御様子はいかがですか？

権左 それが、その……。

由紀 どうしたのです。はつきりおっしゃい。

権左 こういうことをいうのはなんです、大介様はよこしまな心をいだいていると思われそうです。

由紀 よこしまな心？

権左 へえ。

由紀 どういうことですか？

権左 そ、それ以上言うことはお許しください。

由紀 はつきり言うのです。

権左 大介さまはお嬢様にふさわしい方ではねえですだ。

由紀 何を、ばかな。

権左 本当にお嬢様のことを一途に思っている者は、ほかにいると思われまずだ。
由紀 なに。

権左 お、お嬢様。これだけは決して言うまいと思つたのですが……。お嬢様、お嬢様、私は……。(と由紀におおいかぶさる)

由紀 権左、何をするのです。離しなさい。

権左 お嬢さまあ。

由紀 権左、離すのです。(突き放す) 身分がちがいます。

権左 お、お嬢様、申し訳ありません。ご無礼いたしました。(去る)

由紀 だいすけさあーん。

大介 (大介登場) 大介はここです。由紀さん。

由紀 ああ、だいすけさん、御無事でしたのね。

大介 なにを言ってるのです。それより眼帯をしなくて大丈夫なのですか。

由紀 ええ。由紀はゆうべも夢を見ました。由紀の右目の黒い点が、左目のさんごしようの上にもできたのです。

大介 あの転校生と大介さんが闘うしだと思つて、由紀はその後、まんじりともできませんでした。

大介 (ギクツとして) 熱は……。

由紀 熱はありません。大介さん、わたしの言う通りにして下さい。もう、どこへも行かないで下さい。

大介 もう、どこへも行きませんとも、由紀さん。

由紀 えっ、ほんとうですか？

大介 ほんとうです。あちらの世界へわたしが行くことはもうないのです。あしたはミサの日です。

あしたになれば、ミカエラ学園の女生徒三千人が、こちらの世界にやってきます。そして、宝塚と海軍兵士が結合します。

(曲が流れ、けむり。その中に、海軍兵士と女生徒たちがからむシーンが幻のように見える)

(海軍兵士にまとわりつく、女生徒たちの媚態。悪魔のようなサバトのイメージである)

(そのサバトの群れに空中戦のフィルムがおおいかぶさる。曲が止まると、ストップモーション)

大介 戦局は好転し、わたしたちの至福の時がやってくるのです。

由紀 だいすけさん(と抱き合う) あらっ、なにか香水の匂いがしますわ。

大介 えっ、いや、気のせいでしょう。

由紀 そうでしょうか……大介さん、由紀はもうほとんど目が見えなくなってきました。

ですから、きょうは眼帯をはずしてきました。せめて最後に大介さんのお姿をしつかりと見よう、と思ひまして。

目が見えなくなってくると、匂いに敏感になってしまつて……。

大介 ははは……そんなことより左目のさんごしように見せて下さい。

由紀 はい。

(大介、くちづけをするかのように、左目をのぞきこむ。風の音がする。サバト消える)

由紀 どうでしょうか？

大介 いや、今、めまいがしました。

由紀 そんな。

大介 左目のさんごしようの中に確かに黒い点が見えます。それが……。

由紀 それが？

大介 わたしの戦闘機のような気がしたのです。

由紀 大介さん……わたし、なんだか、こわい……（二人、抱き合う）

大介 大丈夫です。ミサの日が終われば、祝言をあげましょう。そして、永久に幸せに暮しましょう。

由紀 ええ……（抱き合ったまま）あの転校生はどうしました。

大介 きょう、わたしが斬りつけました。

由紀 それで？

大介 なかなか手ごわくて、ピストルで撃ちました。

由紀 逃がしたのですか？

大介 いえ、ミサの日に必ず、イケニエになるはずです。

由紀 そうですか……。

大介 どうしたのです。

由紀 いえ、由紀の右目の黒い点が、2つ、3つとふえてきているのです。ひよっとして……。

大介 ひよっとして？

由紀 転校生がふえてきているのではないかと。

大介 そんな……気のせいですよ。ミサの日はあしたです。そうしたら、もうわたしたちの計画も終わりです。

あさってになれば、祝言です。

由紀
ほんとうに……由紀はうれしゅうございます。

(二人、再び抱き合って――)

大介
きょうは、権左はいないのですね。

由紀
ええ、おつかいで、町まで出ました。

大介
そうですか。それでは、今夜は二人つきりなのですね。

由紀
ええ……。

(権左が大介の戦闘機の操縦桿をこわしている。金属音が響く)

●暗転●

◆七場◆

(舞台は、ミサの儀式である)

(音楽は、女生徒たちのコーラス『故郷を離るる歌』。(吉丸一昌(よしまるかずまさ) 作詞・ドイツ民謡)

(女生徒たちは、銀の燭台を手に集まっている、ろうそくのみが光である)

女生徒達 ♪ 『故郷を離るる歌』冒頭を歌う

シスター 全員、そろっていますね。きょうが、聖ミカエラ学園のミサの日です。

女生徒たち はい、せんせい。

シスター し、静かに。もうすぐミサが始まります。そして、聖ミカエラ学園の七十年の歴史が閉じられます。

さあ。イケニエを、ここに連れてくるのです。

女生徒たち はい。せんせい。

(縄でしばられた亜維子。さるぐつわをされ、もがきながら、連れてこられる)

シスター おまえは、女生徒のかっこうをした悪魔の子です。宝塚にいくのに、ふさわしくありません。

亜維子 うーうー。(もがく)

シスター おまえは、数々のあやまちを犯しました。調べはついています。

怪しげな旅芸人からもらったおにぎりを食べたばかりでなく、大介さんの講義の前で、ハンバーガーを食べました。

さらに、池田理佳に魔法を見せ、わたしたちの宝塚への旅を阻止しようとしました。よって、いけにえになるのです。

亜維子 (もがく)

シスター さあ、お祈りです。

シスターと全員 天にまします我が主よ。愛と聖霊を今、あなたにお返しします。

シスター わたしをいまわしい思い出から解放して下さる時がやってきました。

ひとりの仔羊を血に染め、初恋を知らぬ乙女たち三千人をあなたに今さしあげます。

全員 愛と聖霊の名において、ミサに御加護を。アーメン。

シスター (祈りの中で) さあ、処刑です。

竹宮 ヤーッ!

(竹宮、亜維子を日本刀で斬ろうとするや、ローソクいつせいに消え、暗黒の中、女生徒たちの地の底からくるハミングの輪が広がる)

(暗黒の中でギヤーツという悲鳴がおこる。シスターの声である。すぐ明かりがつくと、亜維子がシスターを刺している)

(再び、静かに『故郷を離るる歌』のコーラスが始まる(ハミング))

シスター　ふらちな！裏切り者め！

(血染めのナイフを手にしているのは亜維子である。シスター、もがいている)

シスター　裏切り者たちめ……。

亜維子　やかましい！（とシスターを蹴る）これからは、おにぎりだろうと、ハンバーガーだろうと、腹いっぱい食うんだ。

野郎ども、処刑は完了された。ミカエラ学園のミサは、失敗に終わった。これから始まるのは黒ミサだ。

野郎ども、かねてからの手はず通り、配置につくんだ。聖ミカエラ学園の封じ込められた扉をあけよ！制服を脱ぎ捨てよ。わたしたちは、今、神への謀反を起こすんだ。

(「オーツ」という叫びと共に、女高生たち、いつせいに武器を取って集まる)

竹宮　聖ミカエラ学園の閉じ込められた歴史に、今、光がはいる。

シスター　(血に染まって) 祈りの前に扉を開けてはいけない。そこは、昭和19年に続くタイムトンネルだ。

祈りの前に扉を開けると、歴史がメチャクチャになる。

亜維子　かまうことはない。扉を開けよ！

渡辺 扉が、扉が開（あ）くぞーっ。

（女生徒二人が扉をあけると、向こうは光と煙。パタパタという天使のはばたく音がきこえ、あわてて閉める）

亜維子 天使が、天使がはばたくぞーっ。一万一千余の天使を、ひとり残らず殺戮するんだ。

たった一匹でものがした時は、黒ミサは失敗だ！。

全員 オーッ。

遠藤 （前に出て）隊長！天使が、天使が街に逃げますっ

（みんな、前に出て、空を見る。天使がはばたく音）

亜維子 かまうことはない。街に、火をはなて。一匹残らず殺戮するんだ。

全員 はいっ、隊長！

（けむり。音楽『青い山脈』にのって、亜維子を中央に全員、ハの字に集合して、正面をにらみ）

合唱 ♪ 『青い山脈』冒頭を歌う（合唱止め）

全員 ミカエラ学園たたき壊せ！ わたしたちは今、神と聖霊と、神の子に、謀反を起こすんだ！

『青い山脈』流れている。

シスター

(倒れながら) 誰が裏切ったの。誰がわたしのミサをこわしたの。池田さん、大島さん、萩尾さん池田さん！

(大島、シスターを蹴る)

少女十字軍はどうしたの…。美村亜維子、あなたね、あなたがわたしの仔羊たちを洗脳したのね。みんな今からでも遅くない。宝塚へ行くのよ。萩尾さん、美内さん、そうでないと、貞操帯は永久にはずれないのよ。

亜維子

(手にカギの束を持って) もう遅い。初恋知らずの生徒たちの貞操帯は、ゆうべわたしがはずした。

抑圧された欲望は、もうとりはずされたんだ！(カギを投げる)

シスター

悪魔の使い、美村亜維子ーッ。(女生徒たち、全員後ろを向く)

(亜維子、制服を脱ぎ捨てる。すると、その下は、少年十字軍の身なりをしている)

亜維子(ハンス)

僕は、美村亜維子なんかじゃない。長い長い行進だった。

僕は聖地エルサレムをセルジュクトルコから取り返すために、フランスとドイツの少年少女たちで組織された少年十字軍の、ハンス・ハイルナーだ！マルセイユの港に到着するまでに、結核でフランソワが死んだ。

熱病でマルコが死んだ。地中海にたどり着けば海がまっぶたつに割れることを信じ、

汚れなき子供たちで組織された少年十字軍は、必ず成功するはずだった。

けれど、マルセイユの港で、祈りはむなしく、地中海は、まっぶたつに割れなかった。僕たちは、神を呪った。

いや、それだけではない。マルセイユで僕たちを待っていたのは、奴隷商人たちだ。

奴隷になるために、アフリカ行きの船につれこまれた少年十字軍の悲しみと憎しみ、それも今では空しい。

僕は、象牙海岸にたどりつく前に、海に身を投げた。

そして、時の流れを超え、この聖ミカエラ学園にたどりついたんだ！

大人たちは、いつも子供たちを利用してしようとしている。けれど、僕はだまされない。この世界に神は存在しない。

存在するものなら、僕たち少年十字軍を救えるはずだった。僕は知った。

十字軍も、少年十字軍も、東西ローマ教会を統一しようとした大人たちの野心の産物だったことを。

そして、ミカエラ学園は、たったひとりのシスターの恋の病いと、帝国海軍狩野大介によって、

宝塚と名付けられた従軍慰安婦の取り引きが行われている学園なんだ。（女生徒たち、全員前を向く）

シスター

何を言ってるの。そんなばかな。信じられない。

私の、わたしの青春は、初恋は、ツルゲーネフのあの人に再びあわしてくれと、神はわたしに言ったのよつ。

もうすぐ、宝塚と海軍が結合するはずだったのよ。大介さん、約束の時間に間に合いません。

ミサは、ミサは、失敗しました、大介さんつ。

亜維子

マルセイユにたどりつくまでに、僕たち少年十字軍の背中には、天使の羽根がはえていると大人たちは言った。

けれど僕の背中を見る。

亜維子

天使の羽根は、奴隷商人の手でもがれてしまったんだ。

（ハンスが、背中を見せると、そこには羽根をもがれた跡がある）僕は墮天使かもしれない。

でも墮天使には墮天使の怒りがある。ミカエラ学園燃え落ちろ！ローマ教会燃え落ちろ！少女十字軍は今から神を殺すんだ。

女生徒たち

オーツ

シスター

わが神よ、この裏切りものたちを、処罰して下さい。この反逆の仔羊たちを処罰して下さい。（と倒れ死ぬ）

（明りおちる）

美内

天使が逃げるぞーっ！

(扉が開くと同時に、客席に向かって、この世のものとは思えない光(扉の奥より射す)が輝く。音楽)

(女生徒たち、光におびえて倒れ伏すもの数名)

青池

おお主よ、お許し下さい。

萩尾

おお主よ、わたしたちの罪をお救い下さい。

亜維子

ひるむんじやない。こんなものは、まやかしだ。

(光が全面に輝き、人々の目が見えなくなった頃、亜維子は、その光に向かって突入する)

(亜維子の叫び「ワァーッ！」そして、暗黒。神の叫び声)

(たいまつをもって再び現われた亜維子)

(音楽、高まって――)

亜維子

神を！神を殺した、神を殺したぞーっ！

(女生徒たち、「ワァーッ！」と歓声を上げ、亜維子のところに群がり、武器をかまえてポーズ)

亜維子

ミカエラ学園に火をはなて。全てを燃え落とすんだ！

女生徒たち

ウオー。 (と散る)

(ミカエラ学園が煙に包まれて崩壊する)

シスターA やめなさい、おやめなさい！

シスターB 何をしているのあなたたち！おやめなさい！

(女生徒たち叛乱をとどめようとするシスター二名を撲殺する)

●暗転●(懐中電灯)

(激しく高まる音楽)

(女生徒たち、それぞれ、絶叫する)

(暗転下、懐中電灯に照らされつつ)

1. 青池久美 17歳で初恋も知らず、宝塚にも行けなかった。

17歳で初恋も知らず、白馬の王子は夢だった。

謎はすべて解けた。思い出×恋×2は、失ってしまった青春牢獄の呪祖だ。

こなごなになれ、ミカエラ学園。呪われろ、すべての教師たち。

2. 大島真由美 夜、鏡に向かって三回呪文を唱えた。

美しくなれますように。先生に叱られませんように。成績が良くなりますように。アンダラゲームネ。

苦しくなると唱えるわたしだけの呪文。もうそれも、きょうが最後だ。

平穩は混乱に。混乱は美德に。美しいものは醜くなれ。醜いものは美しくなれ。

3. 遠藤冬美
道をあけろ、立ちふさがる者たちよ。私は一直線に突き進む。私の時間がゆるやかに流れる時をめざして

4. 大和和都子
私はもつときままに生きたかった。眠りたい時に眠りたかった。話したい時に話したかった。歌いたい時に歌いたかった
あたしはもつと色んな人に会う。もつとたくさん飛ぶ。もつとたくさん酔っぱらう。
もつとたくさん吸収し、もつとたくさん放出する

5. 山岸みちる
なんにもない、ほんとはわたしにはなんにもない。鳩は空高く飛んだ。でも、私は飛べなかった。
燃え上がれ、ミカエラ学園。

6. 近藤
神は死んだ。私は踊る。天使は死んだ。私は踊る。
あしたもあさつてもわたしは踊るんだ。

7. 野村真樹
なぜ学校は監獄に似ているの。あたしは自由になるんだ

8. 萩尾美佐世
ここを出たらもう家には帰らない。制服、髪をしばるゴム、朝の祈り、門限。そんなものはいらぬ
これからは好きなもので身を包むのよ。赤い口紅、黒いパンプス、イミテーションパールのイヤリング。
そしてもう間に合わないかもしれないかもしれない汽車に駆け込み乗車するんだ

9. 竹宮こずえ
ピタゴラスの定理は三つの角を結ぶ。でも、私と彼は結ばれることはなかった

初恋は終わった。噂になることも無かった。修学旅行に行くこともなかった。積み立て貯金はペスの餌に化けた。みんな死ねばいい。

病欠87回、遅刻78回、早引き99回、試験は零点。

歌う事もなく、踊ることもなかった。泣くこともなかった。みんな死ねばいい

10. 美内陽子

お父さんはあたしをぶちました。お母さんもあたしをぶちました。先生もあたしをぶちました。ぶたれながらあたしは考えました。いつかお前たちをぶちのめしてやる

あたしは友達をぶたない。母になつても子供をぶたない。けれどあたしの友達をぶつ奴は許さない。絶対に

11. 池田理佳

テストがなによ。校則なんてくそくらえ。あんたたちは知らないだろう。

18歳の欲望を学校の中に閉じこめる事なんて出来やしないんだ

レディーガガのリズムにのせて、わたしは毎晩マスターベーションに耽った

一枚のテスト用紙で私を管理しようとする学校に私が負けるわけがない一本の指さえあれば快楽を生み出す事が出来るんだ。

これからは飽きるまで少女漫画を読むし、毎晩するマスターベーションからトリップして恋人を見つけるんだ

夏の砂浜でわたしは夜を通して男と抱き合う。もう教科書なんて開かない。もう一生教科書なんて開かない

12. 高河みゆ

試験の前夜、私は星を救えました。それはロマンティックな逃避だったのでしょうか

逃げることしか知らず、試験を作った人を呪い、私は燃える炎をつかみました

それは熱くはありませんでした。私は人を殺しました。それは罪深い事ではなかったのです

私達を管理しようとする学校が教えてくれなかったもの。私はそれを知ったのです。

盗め！壊せ！撃て！殺せ！お父さん、私は人を殺しました。お父さん、私は人を殺しました

全員

ワーツ。

(女生徒たち、何人か消えている。亜維子、舞台中央に)

美内

亜維子ーっ、あなたはどこへ行くの。

亜維子

世界中の神を殺しに……。

(明りおちて、女生徒たち、ストップモーション)

(上手スクリーンにフィルム流れる。下手、上に戦闘機に乗った大介が浮かび上がる。音楽)

大介

由紀さん、少女たちは来ませんでした。戦局はますます困難な状態になっていきます。

しかし、狩野大介は、あなたのために敵艦を撃沈します。生きて帰れるかどうかはわかりません。

もしも、もう一度やり直せるものなら、私は、必ずあなたとそいとげるつもりです。さあ、敵艦が見えてきました。

わたしは、今、突撃します。由紀さん、見ていてください。これが狩野大介の最後の戦闘です

(銃撃の音がする。ガガガガガ)

なんだ、これは！操縦桿が動かない。操縦桿の故障か、これはなんだ(ガガガガガ)

誰かが、操縦桿をこわしたのか……。由紀さあーん、桜の花が満開だというのに、わたしは散らなければならない。

由紀さあーん！……さんごしようだ……さんごしようがいつばいだ。南海の海は、さんごしようがいつばいだ！

由紀さあーん……。

(大介の戦闘機、南の海につっこむ)。 (どかーんという爆発音の後、一瞬暗転)
(明るくなると、旅芸人たち、花道から現われる)

旅芸人 2

とうとう、この日がきましたな。

旅芸人 4

太鼓たたいてお正月。

亜維子

あら、旅芸人のみなさん。この前はオニギリをありがとう。おいしかった。

踊り子

おめでとう、亜維子さん。さあ、わたしたちといきましょう。

亜維子

どこへ。

旅芸人 1

わたしたちはあなたを必要としています。

亜維子

そんな！ とんぼ返りはできないよ。

踊り子

とんぼ返りはいりません。わたしたちが全国をめぐり、やっと見つけたあなたの力が欲しいんです。

亜維子

力って、これからわたしたちは、ローマ教会めざすんだから。

旅芸人 3

ローマ？ ああ1212年のローマね。

五人

これだけのエネルギーで、それはむりというもんでさあ。

踊り子

今、わたしたちは、時の流れを超えているわ。

旅芸人 2

大東亜戦争の時代はすでに超えてしまったぜ。

旅芸人 1

日露戦争も超えてしまった。

踊り子

明治維新も超えてしまったわ。

亜維子

なんだって……すると、あんたたちは……。

大島 なによ、わたしたちをどこへ連れていこうっての？

旅芸人 1 賢明なあなたなら、わかっていたはず。

旅芸人 4 わたしたち、雲の上甚五郎一座の、甚五郎親方が、まだ登場していないことに。

踊り子 甚五郎様と、四郎様のいる世界に、今、わたしたちはタイムトリップしているのよ。

巫継子 四郎様……すると、あなたたち……。

(ドライアイス。音楽、高まって――)

(扉が開くと、一群の姿が見える)

竹宮 巫継子つ、ローマ教会だわ……。わたしたち、ローマ教会に来たんだ……。

巫継子 ちがう、ローマ教会ではない……。

(天草四郎の叛乱軍が立っている)

五人 四郎さまあ、ただいま、少女十字軍をつれてまいりました。(奥の扉があいて、天草四郎現われる)

天草四郎 よくきてくれましたね。少女十字軍のみなさん。わたしが天草四郎時貞です。

そして、こちらにいるのが、雲の上甚五郎です。(ひとりの武士が礼をする)

幕府は、わたしたち切支丹を、ひとり残らず殺そうとしています。数千人の信徒たちが獄門はりつけになりました。

現在、わが軍団は、傷つき、力つきようとしています。旅芸人たちは援軍を求め、あなたたちを迎えにいったのです。

叛乱軍・旅芸人たち ようこそ、少女十字軍のみなさん。

巫維子　ローマ教会じゃないのね。

天草四郎　ローマ教会？

叛乱軍・旅芸人たち　ここは島原です。

巫維子　わたしたちは神を殺したはずです。なのに、どうして切支丹のあなたたちは平気なの。

天草四郎　はっはっはっはっ、確かにあなたたちは何者かの神を殺したのかもしれない。だが、この世界では、神は、私です。

巫維子　え？

天草四郎　さあ、わたしのために少女十字軍のみなさん、幕府を倒そうではありませんか。

どうす様、世のために、わたしたちに力をお貸し下さい。ハライソは近づけり、ハライソは近づけり。

叛乱軍・旅芸人たち　ハライソは近づけり。

巫維子　幕府を倒した後はどうなるってのよ。

天草四郎　わたしがこの世に君臨するのです。そして、安楽に死ぬ。すべての人々が、ハライソにいけるのです。

さあ、みなさん、わたしたちに力をかけて下さい。

巫維子　いやだ、いやだ。あたしは、世界中の神の存在を許さない。おまえんかが神であるものか。

幕府を倒したあと世に君臨するならば、ローマ教皇と同じじゃないか。

天草四郎　なに、貴様！ハライソの存在を否定するのか！

巫維子　ハライソはここだ。おまえが神なら、ここをハライソにしてみろ。死ぬ！神の名を語る騙（かた）りめ。

天草四郎　どうすさま！力余ってわめきたてる援軍の少女たちに神のしるしをおみせください。

（四郎、「はあーっ」、女生徒一人倒れる）

大島

魔術よ、魔術だわ。

巫維子　だまされるな。こけおどしだ。めくらましだ。

天草四郎

魔術ではない。神の力だ。

青池

やっぱりこの世には、私たちの知らない奇蹟の世界があるのよ。

巫維子

だまされるな！神の名をかたるかたりだ、めくらましだ。

池田

そうよ、みんな。少女十字軍の武闘訓練を忘れたの？ 私たちは悪魔の使いと戦わなければならない。

いい、今私たちの前にたちふさがるものすべてが、悪魔の使いよ！

天草四郎

反逆するか！

池田

やあっー（池田理佳、四郎に斬りかかる。）

（四郎、池田を斬る）

池田

アッー。（血を吹き上げる）

女生徒たち

理佳！

池田

ほら見て！真っ赤な血よ。もしも天草四郎の血がわたしのと同じ赤い血でなかったなら、この人にしたがってもかまわない。

でも、それを確かめるまでは……うっ（倒れる）

女生徒たち

理佳！

大和

わっー。（大和、旅芸人1に斬りかかる。）

（それをきっかけに、女生徒たちと叛乱軍の戦いが始まり、甚五郎死す）

天草四郎

無駄な抵抗だ。私たちにはどうすさまがついているが、おまえたちにはすぎるべきものがないのだ。

亜維子 幕府を倒したあと、世に君臨するのなら、ローマ教皇と同じだ！ 私たちは、ローマまで攻め上るんだ。

天草四郎 まだわからぬか？ マトノアノベノマガタチニセルハウミカラヨノアドバ！

(雷鳴が轟き、稲妻が走る(ストロボ)と、山岸みちるの背から煙が噴き出す)

竹宮 少女十字軍・星組、第一分隊、火の陣！

青池 少女十字軍・月組、第一分隊、火炎の陣！

(少女十字軍、戦う。(踊り))

(旅芸人1、2 少女十字軍の攻撃で殺される)

亜維子 死ねー！

(四郎と亜維子戦う。四郎、亜維子を刺す)

竹宮 亜維子！

(亜維子、刺されたまま、四郎をはなさない)

亜維子 私にかまわず、このかたりを刺せ！

竹宮 いやーっ！

(竹宮、背後から四郎を刺す。四郎、倒れる)

叛乱軍 四郎様ーっ！

竹宮 天草四郎だろうが、幕府だろうが、もう管理されるのはごめんだよ。

(四郎のそばにかけよった踊り子、自害)

踊り子 四郎様ーっ！(死ぬ)

亜維子 見ろ！おまえたちの信じるでうす様は、なぜ、おまえたちを救いにやっつてこないのだ。
おまえたちの信じるものもまた幻映にすぎないのだ。

(ドーン、ドーンと音)

大和 なんだ、あの音は？

叛乱軍 幕府軍の攻撃です。

(再びドーン、ドーン)

叛乱軍たち 幕府軍の攻撃が始まりました。

大島 亜維子！

亜維子 野郎ども！今から叛乱軍は、わたしが指揮する。この世の中に、ひとつの神も、ひとつの独裁者もいない。

幕府を倒し、わたしたちの樂園をつくるんだ。

女生徒たち オーツ！

青池 ほんとうに、世界から神も学校も法もなくなるのね。

亜維子 そう、この国に、神もなく、制度もなく、学校もない樂園をつくる。

そして、少女十字軍は世界各地に散らばり、五つの大陸を越え、ローマ教会、神聖ローマ帝国に攻めのぼるんだ！

歴史が、歴史が変わるぞーっ！

(亜維子、真っ白くなり、動かない)

(女生徒たちのまわりに青白い光がみえる)

(それは悪魔の光か、天使の光か、誰にもわからない)

(全員の唄)

♪ あはれ天使よ恋も知らず はえた翼はロウ細工 せめて消えゆく思い出を(亜維子倒れるー暗転ー 反乱軍はける)

走れ天馬時の中 夢はカゲロウ一夜(ひとよ) ゆえ 燃えてはかなく空に散る 伝えてください 伝説を

竹宮 五つの大陸が燃え上がり七つの海が逆巻くぞーツ。

全員 オーツ！(つけながらペンライトを振る)

♪ あはれ少女よ恋も知らず 賭けた祈りはガラス玉 せめて思い出人知れず 影絵になった私

さよなら学園 幻の転校生はわたしたち

(歌が終わると、それぞれ名乗りペンライトを消し消えていく)

美内	3年C組	美内陽子
青池	3年C組	青池久美
近藤	2年A組	近藤みつ
萩尾	3年B組	萩尾美佐世
野村	2年B組	野村真樹
遠藤	1年A組	遠藤冬美
大和	3年A組	大和和都子
大島	3年C組	大島真由美
高河	2年B組	高河みゆ
山岸	2年C組	山岸みちる
池田	〇年〇組	池田理佳
竹宮	3年C組	竹宮こずえ

◆八場◆

(花嫁姿の由紀(両眼が包帯でおおわれている)。前には回り灯籠を持った行列が)

由紀

だいすけさん、やっと二人きりになりましたね。由紀は、もうすっかり目がみえなくなっていました。

けれど、もう、何も心配することはありません。こんなに幸せですもの。

(白い海軍服の大介がそばに立っている。それは、大介ではなく、権左である)

権左　そうです。もう何もかもが平穩になりました。由紀さん、たとえ目は見えなくとも、これからは、わたしがずっと一緒です。

由紀　(よろよろと大介「権左」の手をとり)　うれしい、大介さん。あの転校生はどこかへ行ってしまったのね。

権左　はい。あの時にすべてが解決したのです。

由紀　戦争はもうすぐ終わるのかしら。

権左　戦争？それはなんのことですか？

由紀　え？ほら大東亜戦争ですよ。

権左　はっはっはっは、また夢をみたんですね。

由紀　夢？

権左　戦争なんてどこにもおこらなかったじゃないですか。

由紀　えっ？……ああ、そうでしたか。

(由紀、権左の左手に持っているものをさわる)

由紀　大介さん、これはなんですか。何を持っているのです？

権左　これですか？操縦桿とでもいいますよ。思えば私は、いつも操縦桿を背中にしょっていたような気がする。

それが、今、はずれたのですよ。(と操縦桿を投げる)

由紀　それはよかった。苦勞なさったのね。

権左

いいえ、それほどでもありません。それより、さあ花嫁行列です。参りましょう。

(回り灯ろうを手にした花嫁行列の一行が、客席へ歩いていく)

(権左と由紀、一緒に歩きだす。途中で立ち止まり)

由紀

ねえ大介さん、これからどうなさるのですか？

権左

子供たちと一緒に学ぼうと思います。

由紀

試験もなければ、懲罰もなく、酒もドラッグも恋にも寛大な集会所で、子供たちと戯れながら、戯れせんとやうまれけむ、ですね。

権左

あそびをせんとやうまれけむ、戯れせんとやうまれけむ、

由紀・権左

あそぶ子供の声聞けば、わがみさえこそゆるがるれ。

由紀

ねえ、大介さん、幼い時に、習いましたね。

権左

なにを？

由紀

一六三七年には、何が起こりましたっけ？

権左

一六三七年？ああ、島原の維新です。

由紀

あの指導者の名前、どこかで聞いたような……。

権左

天草ハンス亜維子ですね。どうしたのです由紀さん、急にまた。

由紀

いえ、ちよつと気になることを思い出したものですから。

権左

そうですか。あの島原の維新で江戸幕府が減んで、諸外国と交流するようになったのでしたね。

由紀

島原からいろんなものが入ってきましたね。ギヤマン、びいどろ、ラムネ、ビール、シャボン……

それから、三年後には、島原の維新がヨーロッパにまでおよびましたね。

権左

ええ、ローマ教会も、神聖ローマ帝国も滅び、この世から宗教も国家もなくなっていきました。

それから、三百年、世はこともなく平穏ですね。これからも、ずっとそうです。そんなことより、さあ、参りましょう。

(暗転)

由紀

はい。

(全員の歌)

♪ わたしは人魚になりました うわさも聞かず 目もみえず 千年たっても眠れない 夢と遊んだ 罪ゆえに

●暗転 (回り灯籠回っている) ●

(以下、編集者記)

※この作品には、現代では不適切とされる表現、ならびに実在人物に関するオマージュが含まれていますが、作品執筆当時の社会的状況、および作者が故人であることを考慮し、一部を修正した上で底本のままとしました。差別を肯定・助長する、実在人物の人格を貶める等の意図はございません。

※この作品には既存楽曲が多く使用されていますが、著作権保護の観点より歌詞の表記を削除し、作者による作詞箇所のみ掲載しました。底本の閲覧をご希望の方はご相談下さい。

完